

3 新規学卒者

大卒者の3年以内離職率は31.2%に ——厚労省調べ

2018年3月に大学を卒業した人の就職後3年以内の離職率は前年比1.6ポイント減の31.2%——。厚生労働省が10月22日に公表した新規学卒就職者の状況でこんなことがわかった。高卒者の3年以内離職率も前年より2.6ポイント減って36.9%。産業別では「宿泊業・飲食サービス業」や「生活関連サービス業・娯楽業」で離職率の高さが目立つ。

集計結果は、事業所からハローワークに提出された雇用保険の加入届について、新規被保険者資格取得者の情報から学歴ごとに新規学卒者と推定される就職者数を算出し、さらにその離職日から離職者数・離職率を算出したもの。

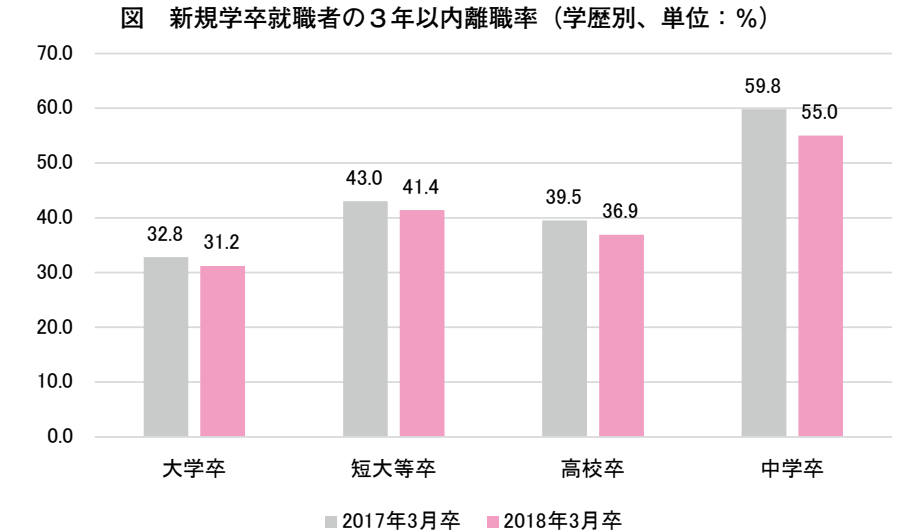
厚生労働省は、新卒応援ハローワークなどで、離職した学生生徒に対する相談・支援を引き続き行っていくとしている。

2017年卒業者よりやや低下

2018年3月卒業者の就職後3年以内の離職率は、大学卒が31.2%（前年比1.6ポイント減）、短大等卒が41.4%（同1.6ポイント減）、高校卒が36.9%（同2.6ポイント減）、中学卒が55.0%（同4.8ポイント減）で、いずれの学歴でも前年より低下している（図）。

小規模ほど高い離職率に

3年以内の離職率を事業所規模別にみると、小規模の事業所ほど高い傾向にある。大学卒では、5人未満の事業所で56.3%（前年比0.2ポイント増）と半数超にのぼる。以下、5～29人が49.4%（同1.7ポイント減）、30～99人が39.1%（同1.0ポイント減）、100～499人が31.8%（同



1.2ポイント減）、500～999人が28.9%（同1.0ポイント減）、1,000人以上が24.7%（同1.8ポイント減）となっている。

他方、高校卒

は5人未満の事業所が61.9%（同1.1ポイント減）にのぼり、以下、5～29人が52.8%（同2.8ポイント減）、30～99人が44.1%（同2.4ポイント減）、100～499人が35.9%（同2.2ポイント減）、500～999人が30.0%（同2.5ポイント減）、1,000人以上が25.6%（同1.8ポイント減）となっている。

宿泊業・飲食サービス業は3年以内に半数超が離職

3年以内に離職した人の割合を産業別にみると、大学卒では「宿泊業・飲食サービス業」が51.5%（前年比1.1ポイント減）で最も高い。以下、「生活関連サービス業・娯楽業」が46.5%（同0.3ポイント増）、「教育・学習支援業」が45.6%（前

表 産業別の新規学卒就職者の3年以内離職率（上位5つ）

高校生		大学生	
産業	%	産業	%
宿泊業・飲食サービス業	61.1	宿泊業・飲食サービス業	51.5
生活関連サービス業・娯楽業	56.9	生活関連サービス業・娯楽業	46.5
教育・学習支援業	50.1	教育・学習支援業	45.6
小売業	47.8	医療、福祉	38.6
医療、福祉	46.2	小売業	37.4

年に同じ）、「医療、福祉」が38.6%（同0.2ポイント増）、「小売業」が37.4%（同1.9ポイント減）と続いている。

高校卒でも「宿泊業・飲食サービス業」が61.1%（前年比3.1ポイント減）にのぼったほか、「生活関連サービス業・娯楽業」56.9%（同2.8ポイント減）、「教育・学習支援業」50.1%（同5.7ポイント減）、「小売業」47.8%（同1.7ポイント減）、「医療、福祉」46.2%（同0.8ポイント減）も高かった（表）。

一方、最も離職率が低いのは大学卒・高校卒ともに「電気・ガス・熱供給・水道業」で、それぞれ11.1%（同0.3ポイント減）、9.2%（同2.8ポイント減）だった。

（調査部）